★:「福島 可視化展 ベクレルとシーベルト時々グレイ」より

県外支援者　（67 歳の関西の働いているおばさん）

関西では、多くの人が福島原発の事故は終わったと思おうとしています。
私は、終わりの見えない闘いがF1の現場では続いていること、人びとは汚染にさらされ続けていること、そのことは権力によって隠されていることを知らせようと努力しています。汚染は関東まで含まれていることも。
そして、今、福島で経験していることが、大飯、高浜の原発の風下に住む関西の私たちにとって他人事ではないことを知り、ともに考え行動できるようになりたいと願っています。

「生身の体」　南相馬市　佐藤優一郎（浪江町から福島市内に避難、現在は南相馬市の仮設住宅にて避難生活を送る）

未曾有の経験をさせられて、早三年が過ぎ、四年を迎えました。当初は避難民の寄せ集めとしての生活が実生活になり、故郷が目の前にあっても自由に出入りできず、月日が流れます。自分の生きている証が薄れ、住民票から、戸籍から抜かれていくような感じが、仮設住宅を覆っているフェンスの中で魂が漂うような感じがします。地に足をつけず、長年住み続けると周りの見方にも辛いものもあります。人それぞれ、寿命もちがえば、考え方も違う。自分の進路に、決断の時が来ているのでは?

桜井勝延（南相馬市長）

原発に頼らない懐かしい未来の創造こそが命と暮らしを大切に豊かにする社会の実現につながるのです。

県外避難者 A（女性・40 代）

私達家族は福島市の山の中で自給自足の暮らしをしていました。ある日その生活は音を立てて呆気なく崩壊しました。放射性物質が大量に降り注いだのです。
原発の問題は、電気を消費するすべての人にとって身近な問題でありながら、日常の中では「重たい」と思われがちでなかなか気軽に話すことができません。実際私も、原発事故で放射能の被害に遭うまでは、意識したことすらありませんでした。それまでの暮らしが奪われて初めて自分の無知を恥じました。移住先では、車にステッカーを貼り、かばんにはバッジを付け、自分の体験を交えて話すきっかけになればと思っています。

福島在住（男性）

私の家の庭には、とてもいい匂いのすみれがあります。あるお宅の裏庭に群生していたすみれをわけていただいたのです。
しかしある日、近くを通った際に、そのすみれがなくなっていることに気づきました。その辺りは線量が高く、除染により土が入れ替えられていたのです。それを母に伝えると、「うちの庭に二株だけ見つけたから、すみれを頂いたお宅にあげなさい」と。けれども、その家は空き家となり、女主人はもう戻ってきません。最後にお会いした時に彼女は、「出て行くしかない」と小さな声で言いました。

井戸川克隆（町民を被曝からの避難を完成させようとした前双葉町長）

この法律があることを、福島の、日本の皆さん、気づいてください。

原子力災害対策特別措置法に学ぶ

【 目的 】
第一条　この法律は、原子力災害の特殊性にかんがみ、原子力災害の予防に関する原子力事業者の義務等、原子力緊急事態宣言の発出及び原子力災害対策本部の設置等並びに緊急事態応急対策の実施その他原子力災害に関する事項について特別の措置を定めることにより、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律―中略―、災害対策基本法―中略―その他原子力災害の防止に関する法律と相まって、原子力災害に対する対策の強化を図り、もって**原子力災害から国民の生命、身体及び財産を保護することを目的とする。**

福島在住（福島県 中通り 男性）

不思議な事ですが、ごく一部の人たちによって原発推進がなされています。多くの国民の原発いらないの声ではどうする事も出来ません。私は福島に生まれ、どうする事も出来ずここにいるだけです。この国は、どうする事も出来ずに原発推進派の人たちによって自滅に向かって行くだけなのでしょうか。

上記のコメントをいただき…（埼玉県在住女性・40 代）

いただいたメールに強く共感します。自民党の原発推進に抗えない無力感と自滅の予感で、原発事故を重く引きずる人程苦しみが大きいでしょう。3年が経過し私たちの仲間は迷いを捨て各々に選択をしました。長期間の緊張状態が家庭や人間関係を壊すことを経験し、家族と自分を救うために運動から離脱することで責められた方もいます。ですから、別の方法を探し仲間とゆるく繋がり願いをかなえます。けれども、「自滅に向かってゆくだけなのか、とんでもない!」と自然に身体が動いた当時のことを何度でも思い出す必要があります。

「ボクたちの世界」あらおしゅんすけ（二本松市・詩人）

僕たちは不条理の大海を漂っている
放射能を吸い食べながら
子供たちも放射能にまみれた土に遊び
放射能放射能放射能の大海にいる

ガンや白血病や心臓病で死んでも
“事故”との因果関係は考えられないと
電力会社と国は責任をとろうとしない
足尾広島長崎水俣と同じ大海

安全神話で電力にからめ捕られた僕たち
僕たちはしっかりと目を開けて
おぼれかけている同胞と声をかけあい
後に続く人々に語り続けよう
安全神話の泥舟に身を委ね
安易に続けた航海だが
心までは売り渡さずに
不条理の海で泳ぎ続けよう

2014年5月21日
大飯原発運転差止請求事件判決要旨より

「…生存を基礎とする人格権が公法、私法を問わず、すべての法分野において、最高の価値を持つ…」「人格権は憲法上の権利であり（13 条、25 条）、また人の生命を基礎とするものであるがゆえに、我が国の法制下においてはこれを超える価値を他に見出すことはできない。」「原子力発電所の稼動は法的には電気を生み出すための一手段たる経済活動の自由（憲法 22 条 1 項）に属するものであって、憲法上は人格権の中核部分よりも劣位に置かれるべきものである。」

福島バッジプロジェクトスタッフより

山形県米沢へ保育園を避難させた先生に宛てた手紙

演奏会誘ってくれてありがとうございました。今まで私は「花は咲く」いい曲だな!と思いながらも歌いませんでした。…放射能が連想されて、かも知れません。なんとなく今日、歌ってみました。演奏会で頂いた詞を読んでみました。今まで歌う気もなかったので詞をよく読んだのは今日が初めてです。作詞者はどんな思いで書いたのでしょうね!
少し脱線しますが、今までいろんな所を訪ねてチラシとバッジを置いて貰えないかお願いしました。断られる理由で一番多いのが、「いろんな考えの人がいるから。」です。相手の人は私よりも知識は豊富で何倍も反論されますが、私ー「これから生まれて来る人たちの為にお願いします。」には答えてくれないことはあっても反論された記憶がありません。生き物としての本能かも…などと思います。「…花は咲くいつか生まれる君に…花は咲く私は何を残しただろう」…どんな思いで書いたのでしょうね。(スタッフA)

その後、先生から返信をいただきました。
「わたしたちの希望は未来のある子どもたちですよね。」

……

口惜しき　口惜しきなり法蓮草
核の汚れに　哀れ花咲く

口惜しき　種蒔き芽出し　育てたのに
目には見えない　汚れ　汚れ

（丹治博志　福島バッジプロジェクト代表）